

総論

満点	100点	目標得点	90点	試験時間	60分	偏差値	72
大問数	5	小問数	54				
【解答形式】		選択式	35/54問	記述式	17/54問	論述式	2/54問
【問題難易度】		C	4/54問	B	8/54問	A	42/54問
※問題難易度：C難問，B合否を分ける問題，A正答すべき問題，を示す							

Topics

- 1：例年同様、大問が5題で、選択問題・記述問題・論述問題2題を組み合わせた形式には変化がない。
- 2：内容的には古代・中世・近世文化史・近現代史・戦後史とまんべんなく出題されており、昨年の前近代に重点が置かれているものから変化した。分野的には、政治史・文化史に重点が置かれ、経済史が出題されていないのは、昨年と同様である。また、史料問題に絡めて論述問題が2題出題される形式も例年と同じである。
- 3：出題のレベルは難問が減少し、基本問題が増加し易くなった。それだけに基礎事項の取りこぼしは許されない。史料問題は基本史料が1題、未見史料が1題で、未見史料は問題文から時代はすぐに判明するので難問とは言えないが、史料を読解して解くという応用力、自分で文章を書く能力が試されている点は従来と変わらない。

こんな力が求められる！

教科書や、お茶ゼミの授業の内容をきちんと理解し、基本的事項を暗記することが必要。記述問題も、基本事項からやや細かい事項まで書かせることがあるので、暗記するときに書きながら覚える習慣を身につけたい。また、年号を問う問題がいくつかあるので、重要な年代を暗記する必要がある。

さらに、基本史料を何回も見て、未見史料も読解する力が求められているので、お茶ゼミの『日本史資料集』や学校で使っている史料集を常に参照するようにしよう。

また、時代の特徴や変遷を理解した上で、それを100字程度の文章にまとめる能力が必要である。論述は、学習院大学や成城大学のような用語の説明ではなく、時代背景・特徴・歴史的意義が問われているので、用語の暗記だけでは対処できない。日本史の内容理解に努めるようにしたい。

大問別分析

【I】

予想配点 15/100点	時間配分の目安 10/60分
出題分野・テーマ 古代国家の成立と奈良時代の文化	
出題形式 選択	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A)B (B)A (C)B (D)C (E)A (F)A (G)A (H)A (I)B (J)A (K)A (L)A (M)A (N)A (O)A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：3月期①2回，夏期文化4回，11月期1回，冬期対外交渉史I① センター：3月期①1回，夏期センターレベル文化1回，11月1回，冬期対外交渉史I①	

●本大問の特徴・概要

- (イ) 邪馬台国の支配制度と魏への朝貢についての問題。
- (ロ) 倭の五王についての問題。
- (ハ) 奈良時代の唐招提寺・東大寺についての問題。

いずれもオーソドックスな問題で教科書を中心に、さらにお茶ゼミでの勉強を踏まえれば9割は得点できる。

また、すべて選択問題で、選択肢も少ないが、「語群に解答がない場合 0 を選択」という形式が特徴で、自分の知識を動員する必要がある点に注意しておきたい。

●注目すべき小問

- (イ)の(D)魏が帯方郡を支配下に治めた年代は、細かいができなくても合否に関係ない問題。
- (イ)の(E)卑弥呼から使節が派遣された239年は落とせない。慶應文学部対策としては、基本年代を暗記する必要がある。
- (ロ)の選択肢は倭の五王の相互関係を理解していないと解けない。日常的に系図を参照しながら勉強することが求められている。

【II】

予想配点 20/100点	時間配分の目安 15/60分
出題分野・テーマ 戦後の政治と経済	
出題形式 選択	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A)A (B)A (C)A (D)A (E)A (F)A (G)C (H)A (I)A (J)A (K)B (L)B (M)A (N)A (O)B (P)A (Q)A (R)C (S)A (T)A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：10月期3・4回，直前特訓戦後史 センター：10月期4回，直前特訓戦後史	

●本大問の特徴・概要

①55年体制の成立、②戦後の大型景気の推移、③55年体制の崩壊からポスト55年体制、という3つのテーマを扱った問題。いずれも語群からの選択問題であるが、【I】と同じく選択肢がない場合があることに注意。内容的には、ほとんどが標準的な問題で、教科書レベルの知識をマスターしていれば合格点は取れる。時代的には、55年体制が崩壊した細川護熙内閣以後も出題されているので、最近の内閣まで勉強しておく必要がある。

●注目すべき小問

- (G) 自由民主党と日本社会党が当初9割以上を占めていたという問題は難問。
- (P) 細川護熙内閣成立の1993年が問われており、【I】と同様、年代の暗記が必要。

Benesse お茶の水ゼミナール

ただし、(R)村山内閣成立の1994年は細かい。

【Ⅲ】

予想配点 10/100点	時間配分の目安 5/60分
出題分野・テーマ 江戸時代の文芸	
出題形式 記述	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (A)A (B)B (C)A (D)A (E)A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：6月期3回，7月期1回，10月期4回，1月期1回 センター：5月4回，5月4回，6月期3回，センターレベル文化史3・4回	

●本大問の特徴・概要

江戸時代の文芸について作者・作品についての問題で、いずれも基礎的な知識を問うている。

ただし、記述なので、(B)国性(姓)爺合戦、(C)滑稽本の漢字を正確に書けるように練習しておきたい。

●注目すべき小問

(E)水野忠邦は基本中の基本。こういうところで落とさないようにしたい。

【Ⅳ】

予想配点 25/100点	時間配分の目安 15/60分
出題分野・テーマ 立憲国家の成立と初期議会	
出題形式 記述、論述	
小問別解答と難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 問1：A 問2：B 問3：A 問4：C 問5：A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：夏期近現代史I 2・3回，12月期3回 センター：7月期4回，9月期1回，12月2・3回	

●本大問の特徴・概要

黒田清隆首相が憲法発布の翌日に地方官を前にしておこなった「超然主義」演説の史料問題。基本史料であるので、史料の穴埋めはすぐできるレベル。

慶應文学部の特徴である史料を読ませ、論述させる問題であるが、昨年の80字から本年は100字に若干文字数が増加した。

●注目すべき小問

問2の超然主義演説の年月日は若干細かいが、「憲法発布の翌日」という知識が頭に入っていれば解ける問題。

問4の「各員」が地方官員であることは細かい。

問5の論述は、第1回総選挙の結果と、初期議会についての論述でまとめやすい問題だが、超然主義演説を導入にして設問が組まれていることに注意して、初期議会での政府の超然主義と民党の反発の状況を軸に書くようにしたい。慶應文学部対策としては、日常的に論述を書くことを意識して勉強を進める必要がある。100字は意外に短いので、重要語句を入れながら簡潔にまとめる訓練をしておきたい。

【V】

予想配点	30/100点	時間配分の目安	15/60分
出題分野・テーマ	鎌倉時代の政治と経済		
出題形式	記述、論述		
小問別解答と難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 問1：A 問2：A 問3：A 問4：A 問5：A 問6：A 問7：A 問8：A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	※高3履修分に限定 ハイレベル・総合：4月期3回，11月期3回 センター：4月期1回，11月2回		

●本大問の特徴・概要

前問と同じく、例年、慶應文学部で出題される史料と論述を組み合わせた問題。【IV】が100字になったので、昨年120字だった【V】は100字に字数が減った。【IV】の「超然主義演説」が基本史料であるのに対して、こちらは未見史料である。ただし、問題文冒頭に「1308年に鎌倉幕府の官僚が作成」とあるので、鎌倉後期の史料であることが分かるし、問1の文章から霜月騒動、問4から永仁の徳政令が思い出せれば、これらに関与した北条貞時の史料であることがわかるはずである。それがわかれば、記述問題はいずれも基本問題。

●注目すべき小問

問3の執権と連署は基本事項であるが「政務全般を統括する最高責任者」という表現に、若干悩むかも知れない。執権が將軍の補佐役、連署が執権の補佐役であることをきちんと理解していれば、正答は導きだせるはずである。

問8の論述問題は、鎌倉後期の武士の窮乏についての問題。語群の「細分化」と「売却」から、鎌倉時代前期の惣領制の下で、分割相続による所領が細分化し、また、貨幣経済が進展したことによって御家人が窮乏化し、所領を売却したという文章は組み立てることが容易である。問題はそれが「幕府にとってどのような意味をもっていた」のかという設問の部分である。これは、設問に書かれているように「この史料から」読み解く必要がある。この史料の前段にある「所帯を家人に給せず…猛勢の実なし」のところで、「所領を借上に売却したので家臣に給与することができず恩顧を与えられない」と述べていることから、語群の「軍事力」が動揺してきているということが書けるかどうかである。このように、未見史料の時代的性格を押えた上で、史料を読んで内容を読み取り自分の文章にまとめることが当学部では求められている。対策としては、史料を網羅的に勉強することはできないので『史料集』に載っている史料をなるべくたくさん読んで意味を読み取り、未見史料にも動揺しないような訓練を積んでおくことである。